

# 最近の経済動向

## 令和元年10月号

(北海道の景気動向～令和元年8月の経済指標を中心として)

緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動きもみられる

### ■生産動向

- P1 生産活動(鉱工業生産指数)  
弱い動きとなっている

### ■需要動向(消費・投資)

- P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、新車登録台数)  
回復の動きに足踏み感がみられる
- P5 住宅建設(新設住宅着工戸数)  
弱い動きとなっている
- P6 公共工事(公共工事請負金額)  
増加している
- P7 観光(来道者数、来道外国人数)  
改善の動きに弱さがみられる
- P9 輸出入(輸出額、輸入額)  
輸出額、輸入額とも前年を下回った

### ■企業倒産

- P10 企業倒産(倒産件数、負債総額)  
倒産件数は減少し、負債総額は増加した

### ■雇用動向

- P12 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)  
改善が進む中、人手不足感がみられる

### ■物価動向

- P14 物価(消費者物価指数)  
消費者物価指数は前年を上回った

### ■企業の業況感

- P15 企業経営者意識調査  
前期から上昇している
- P16 企業のみなさまから伺いました

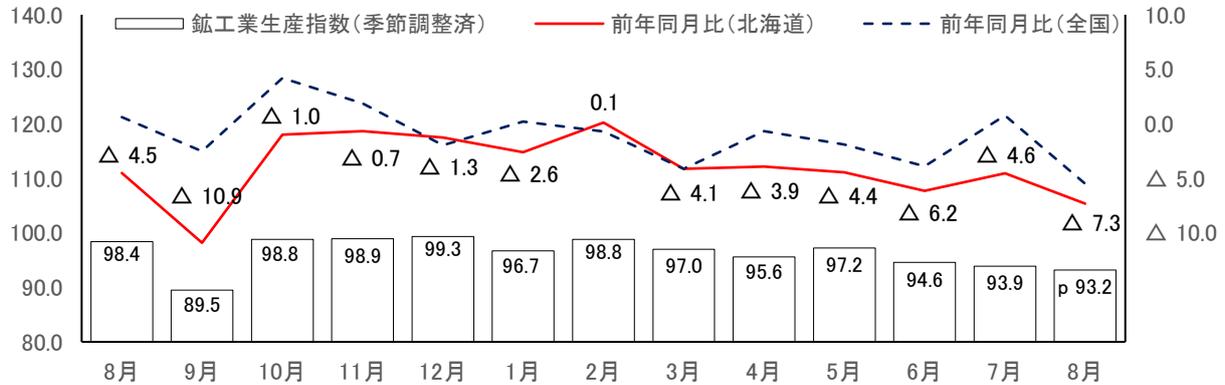
# 生産活動～弱い動きとなっている

## 鉱工業生産指数（8月）

鉱工業生産指数（季節調整済）は、93.2で前月比 $\Delta 0.7\%$ （3か月連続の低下）であり、原指数による前年同月比は、 $\Delta 7.1\%$ （6か月連続の低下）となった。業種別にみると、電気機械工業等7業種が前月比低下、鉄鋼業等8業種が前月比上昇となった。

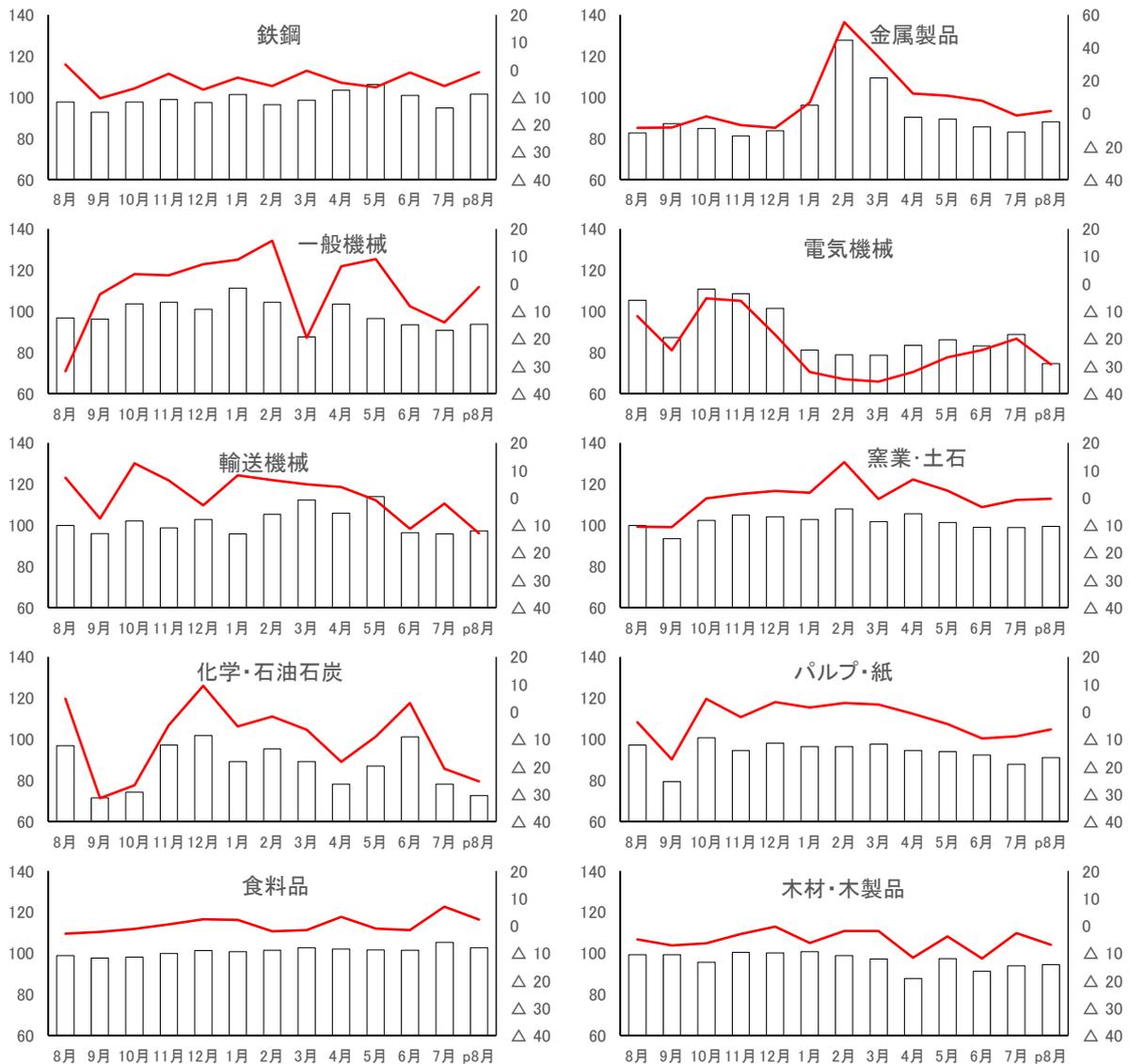
（季節調整済指数：平成27年＝100）

（原指数前年同月比：％）



\*「p」は速報値

### ■主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

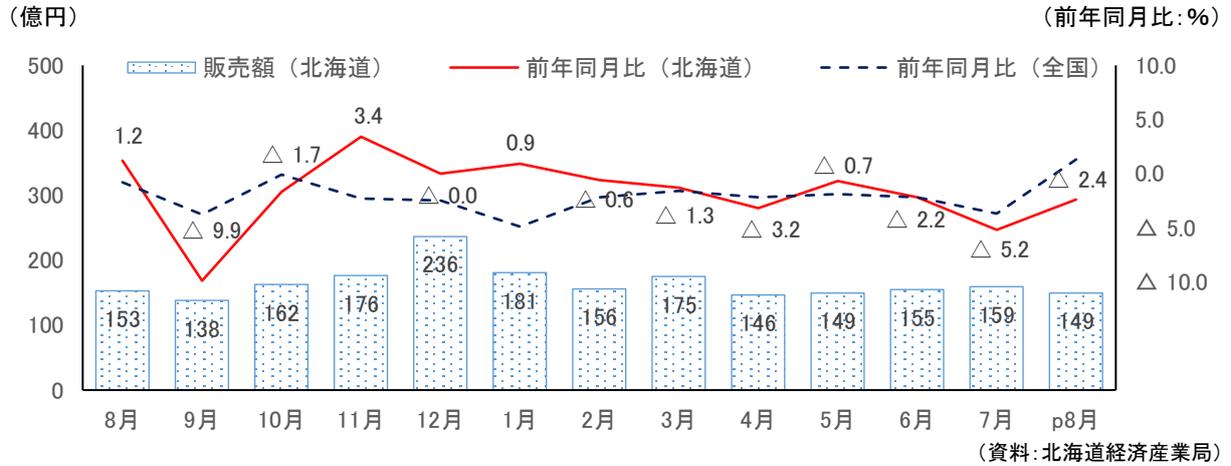


（資料：北海道経済産業局）

# ■個人消費～回復の動きに足踏み感がみられる

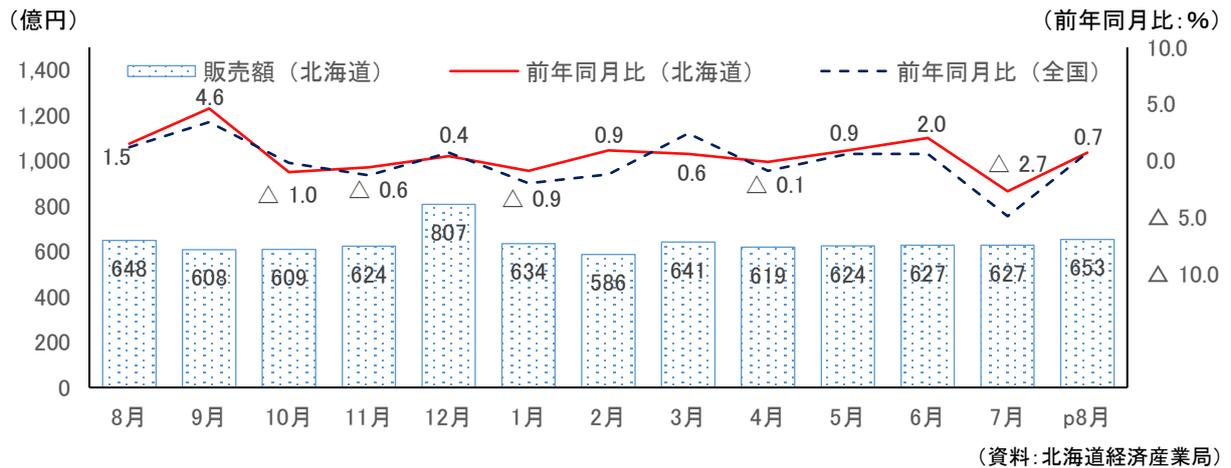
## 百貨店販売額（8月）

百貨店販売額は、149億円で前年同月比2.4%の減少となり、7か月連続で前年を下回った。



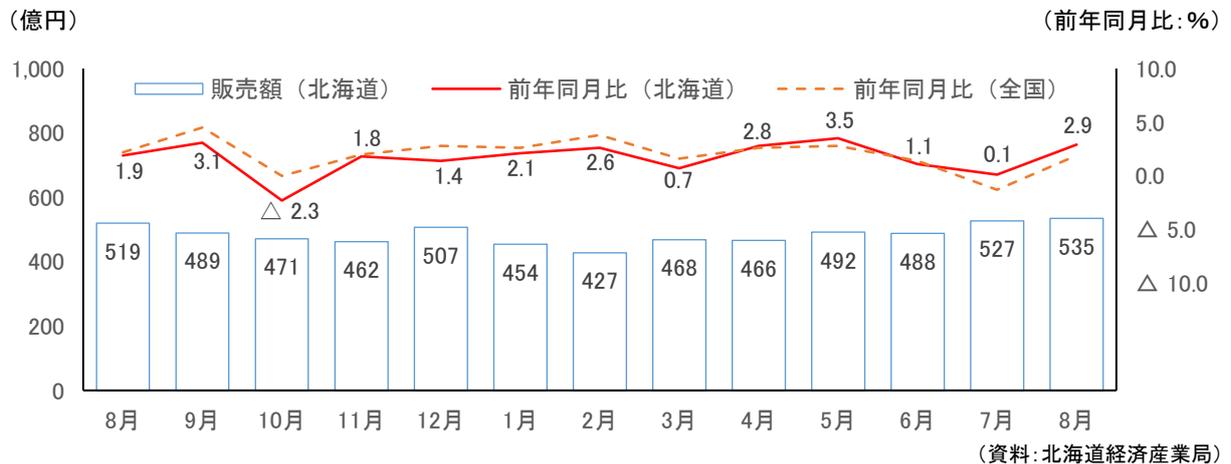
## スーパー販売額（8月）

スーパー販売額は、653億円で前年同月比0.7%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。



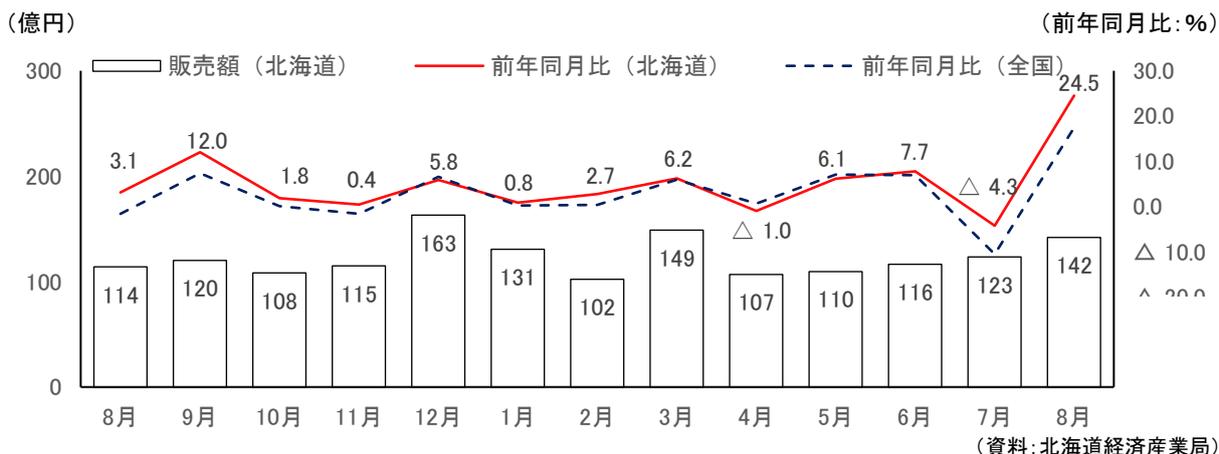
## コンビニエンスストア販売額（8月）

コンビニエンスストア販売額は、535億円で前年同月比2.9%の増加となり、10か月連続で前年を上回った。



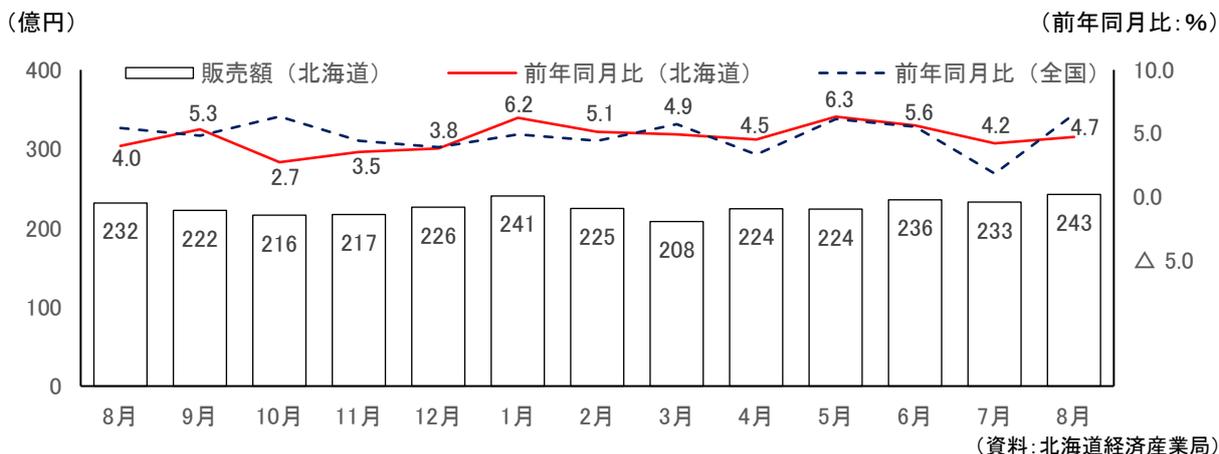
## 家電大型専門店販売額（8月）

家電大型専門店販売額は、142億円で前年同月比24.5%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。



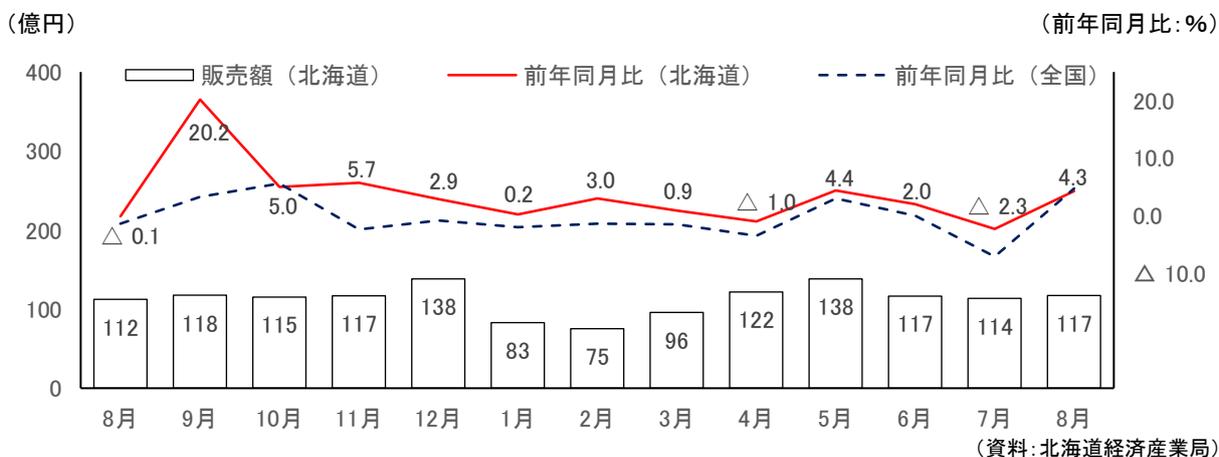
## ドラッグストア販売額（8月）

ドラッグストア販売額は、243億円で前年同月比4.7%の増加となり、52か月連続で前年を上回った。



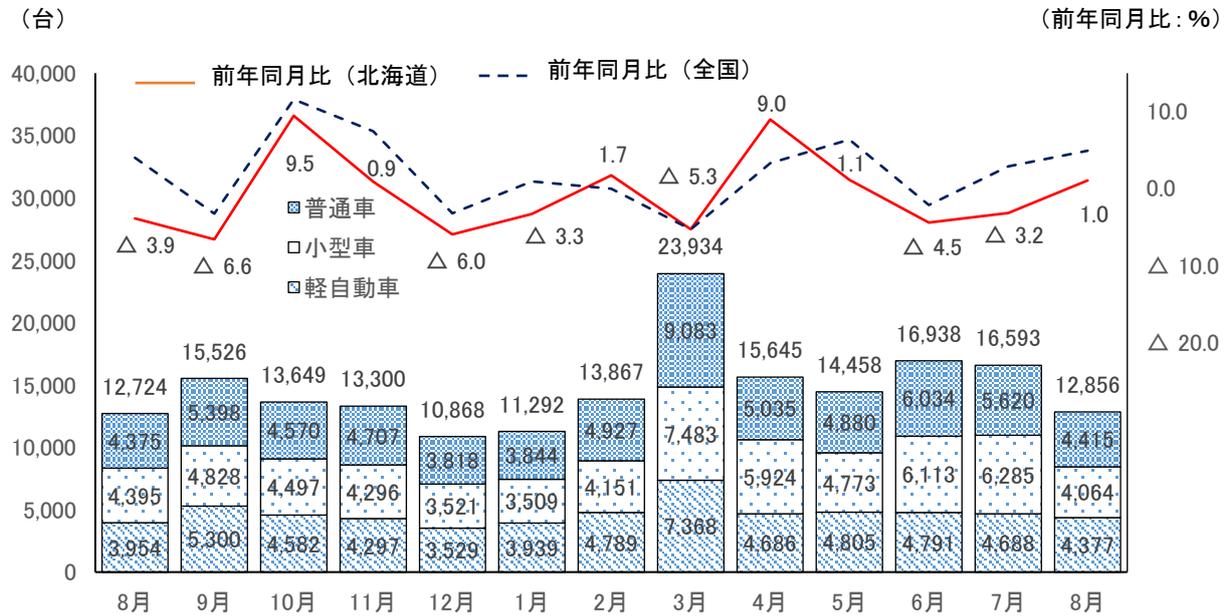
## ホームセンター販売額（8月）

ホームセンター販売額は、117億円で前年同月比4.3%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。



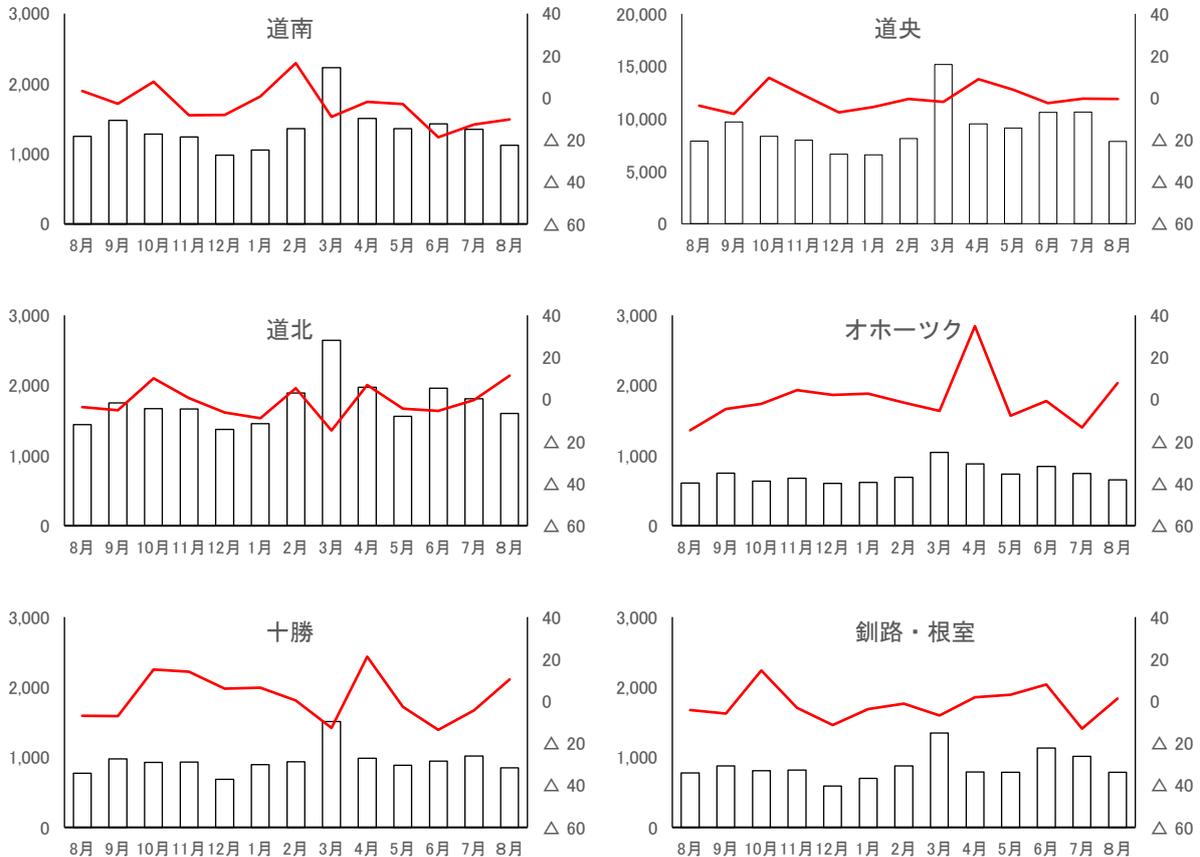
## 新車登録台数（8月）

新車登録台数は、12,856 台で前年同月比 1.0%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。  
 車種別にみると、普通車は、4,415 台で同 0.9%の増加、小型車は、4,064 台で同 7.5%の減少、軽自動車は、4,377 台で同 10.7%の増加となった。



(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

### ■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）

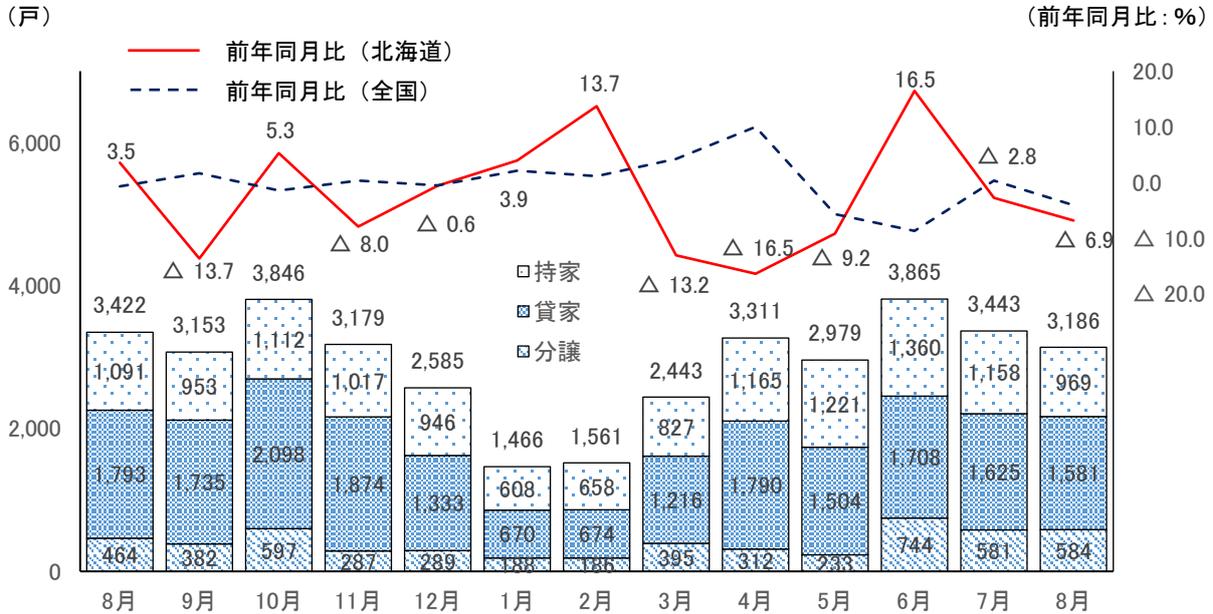


(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

# ■住宅建設～弱い動きとなっている

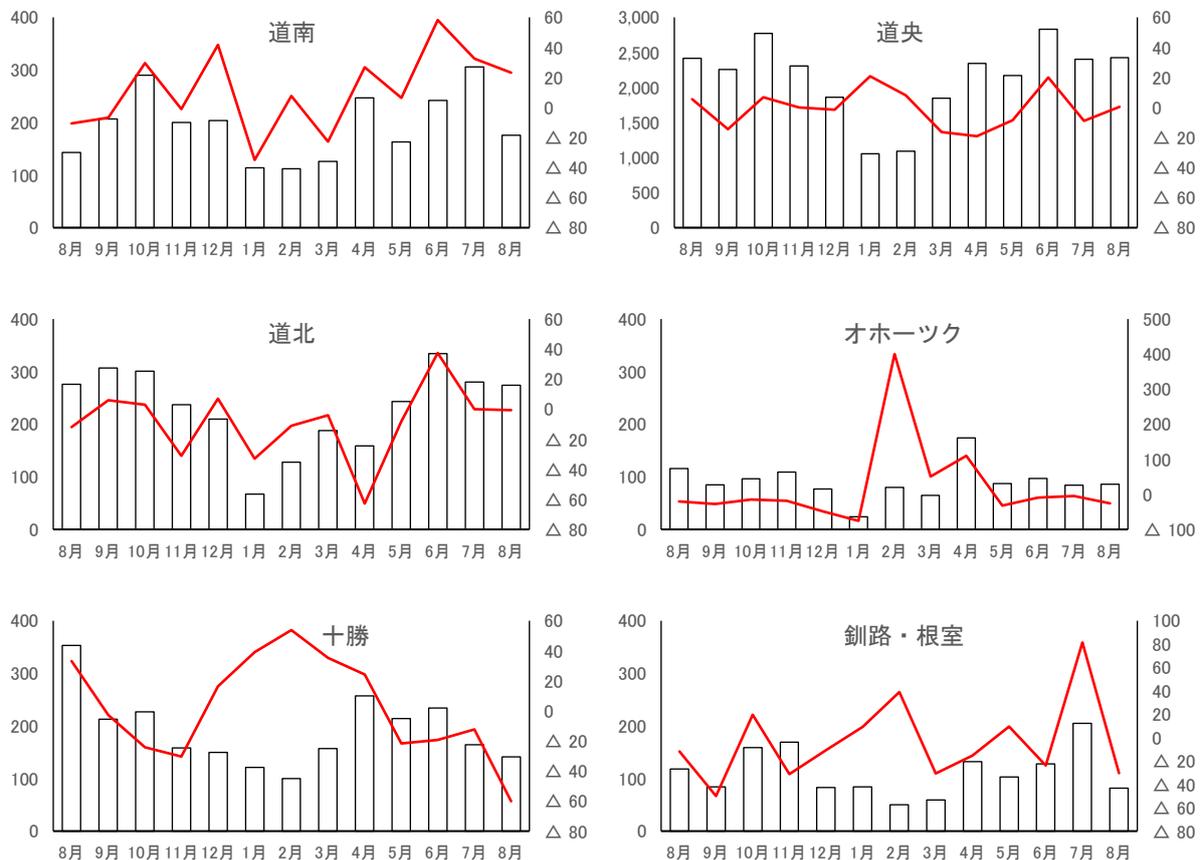
## 新設住宅着工戸数（8月）

住宅着工戸数は、3,186戸で前年同月比6.9%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。  
 利用関係別にみると、持家は、969戸で同11.2%の減少、貸家は、1,581戸で同11.8%の減少、分譲住宅は、584戸で同25.9%の増加となった。



(資料:国土交通省)

## ■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

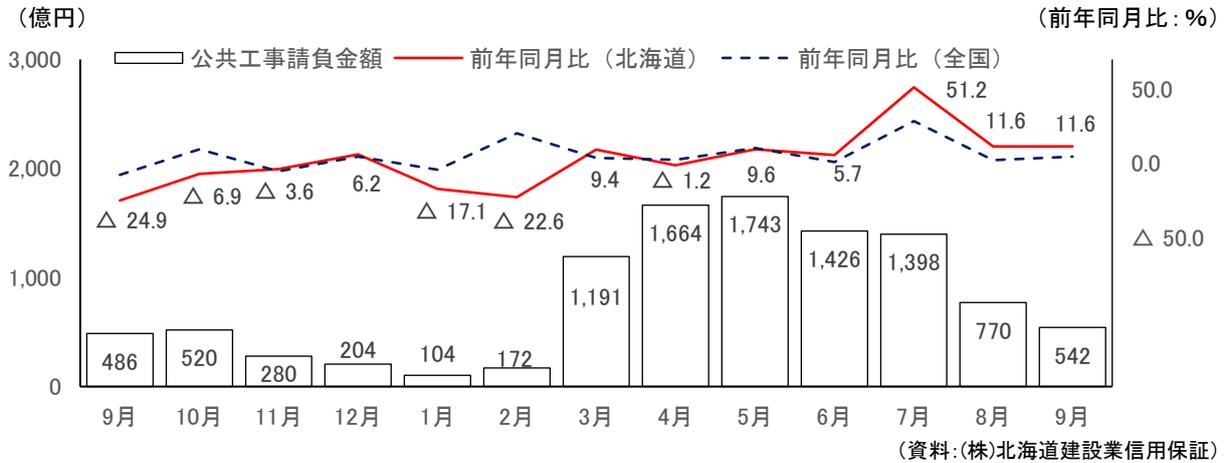


(資料:国土交通省)

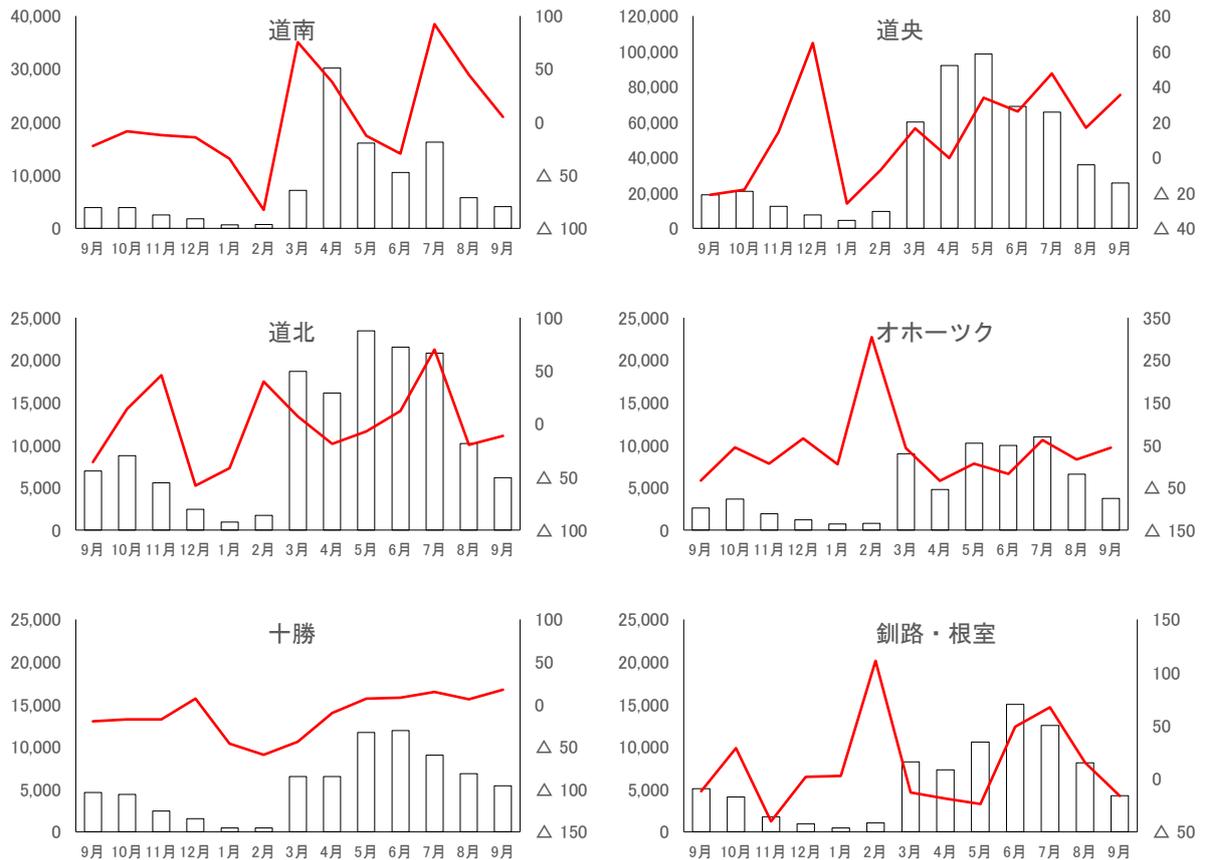
# 公共工事～増加している

## 公共工事請負金額（9月）

請負金額は、542億円で前年同月比11.6%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。



## 各圏域の公共工事請負金額（右軸：前年同月比%）

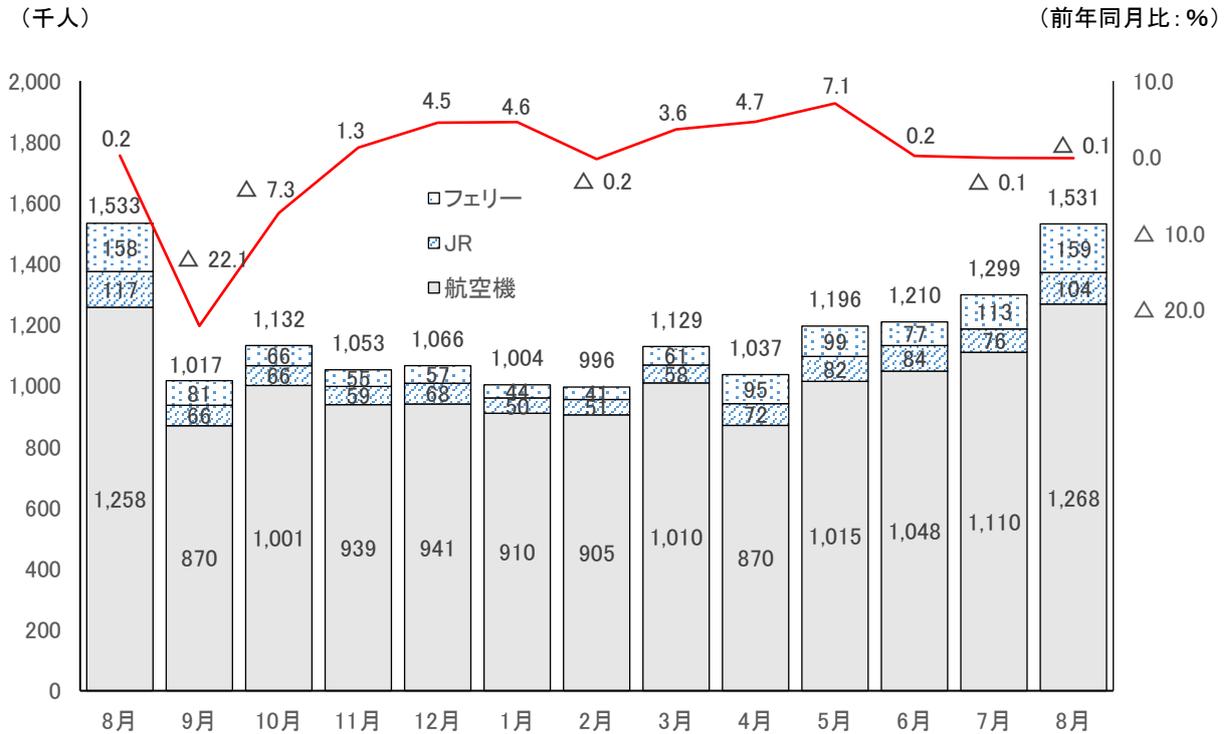


(資料：(株)北海道建設業信用保証)

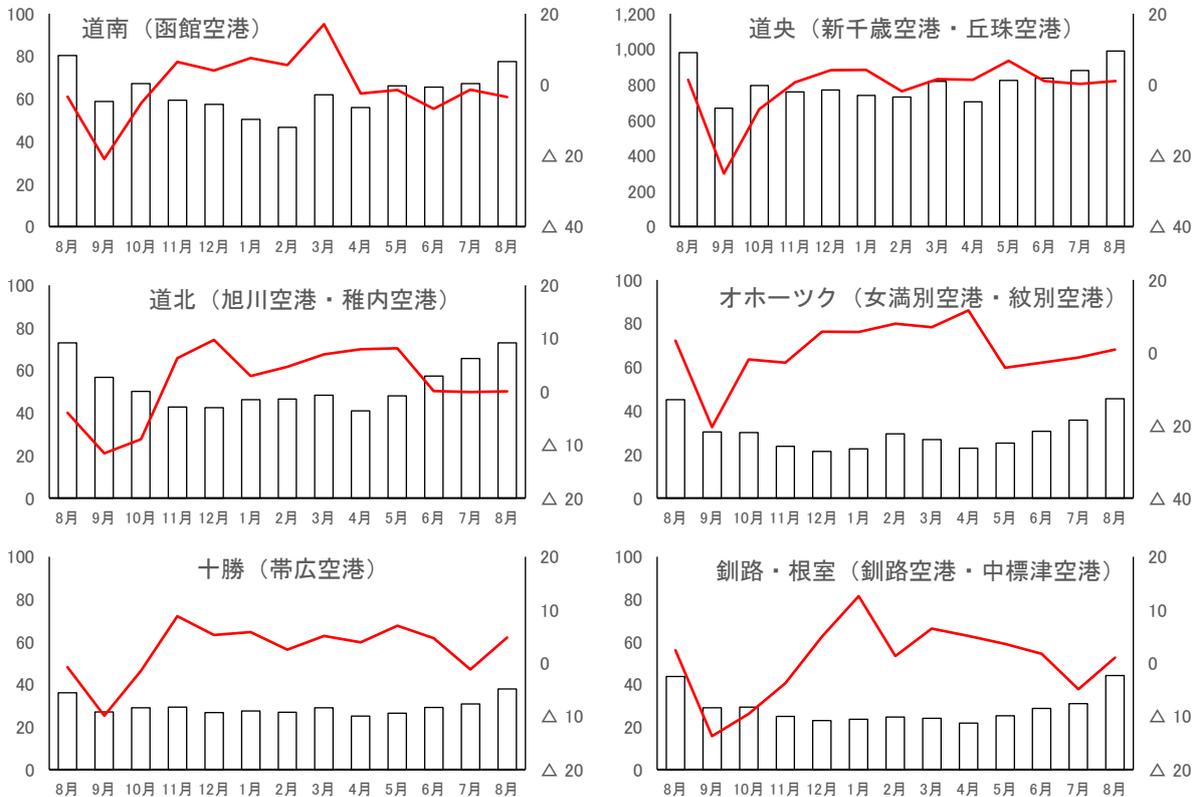
# ■観光～改善の動きに弱さが見られる

## 来道者数（8月）

来道者数は、153万1千人で前年同月比0.1%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



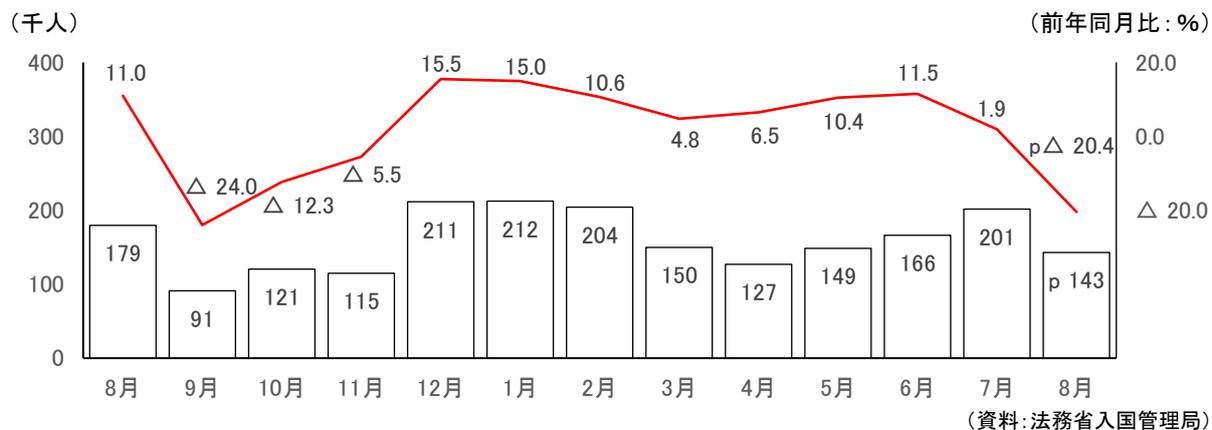
## ■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：前年同月比%）



（資料：（公社）北海道観光振興機構）

## 来道外国人数（8月）

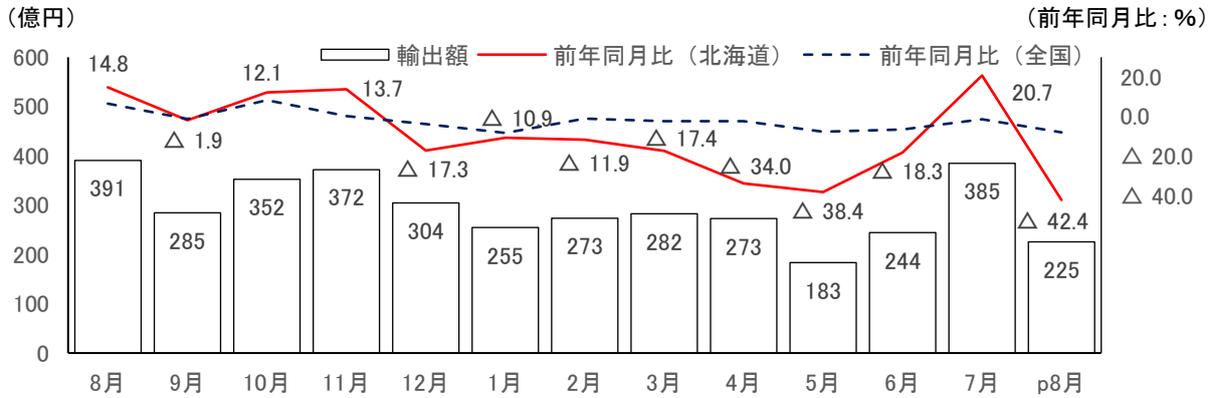
本道に直接入国した外国人は、14万3千人で同20.4%の減少となり、9か月ぶりに前年を下回った。



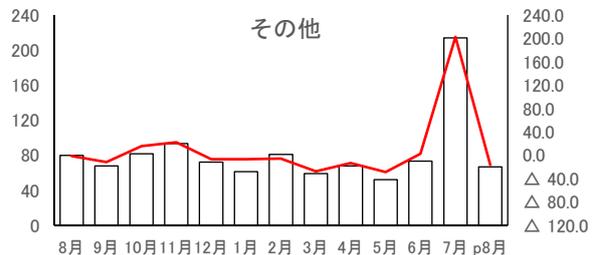
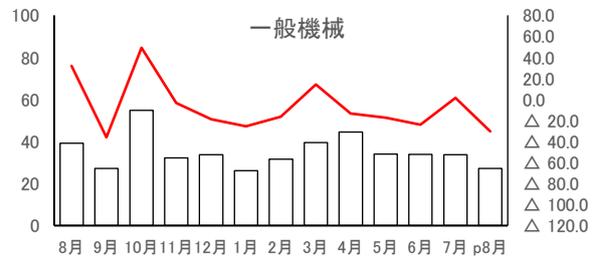
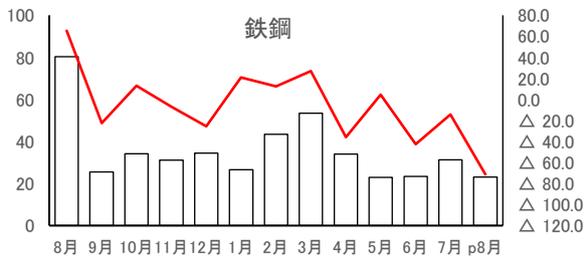
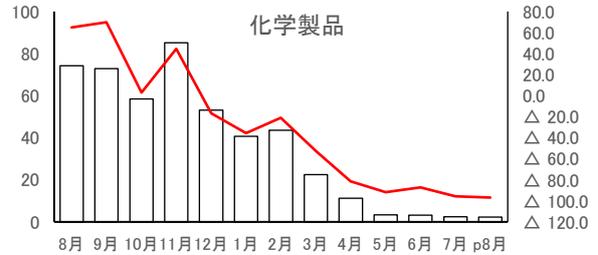
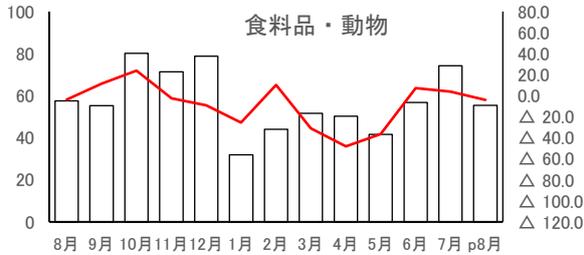
# ■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

## 輸出額（8月）

輸出額は、225億円で前年同月比42.4%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。  
品目別にみると、鉄鋼、化学製品（鉱物性タール・粗薬製品、有機化合物）などが減少した。



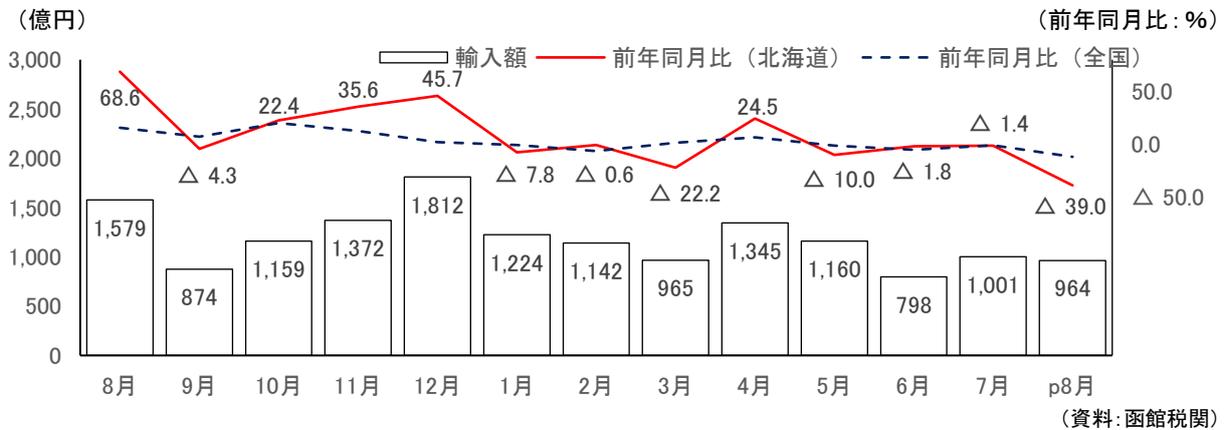
## ■種類別の輸出額（右軸は前年同月比%）



(資料: 函館税関)

## 輸入額（8月）

輸入額は、964億円で同39.0%の減少となり、4か月連続で前年を下回った。  
品目別にみると、航空機類、石油製品、石炭などが減少した。

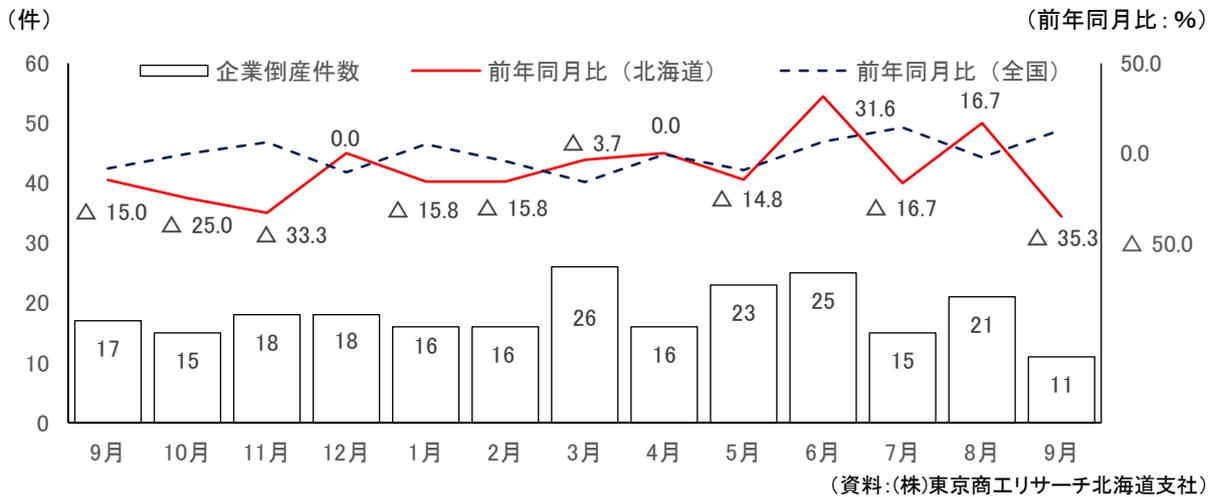


## ■企業倒産～倒産件数は減少し、負債総額は増加した

### 倒産件数（9月）

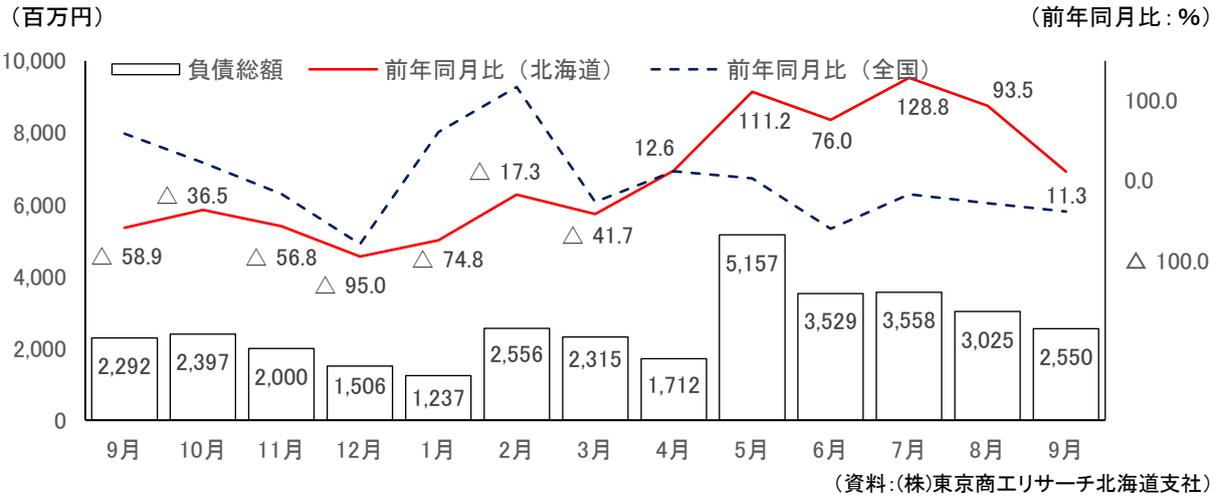
企業倒産件数は、11件で前年同月比35.3%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。  
原因別でみると、販売不振が9件（構成比81.8%）と半数以上を占めた。

業種別でみると、サービス業が6件（同54.5%）で最多となり、運輸業が2件（同18.2%）と続いた。

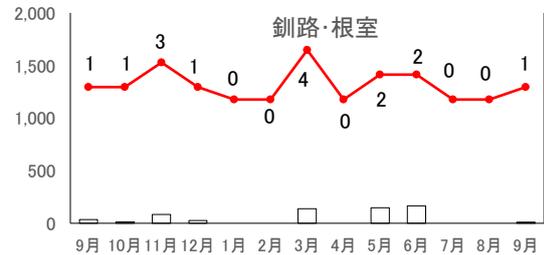
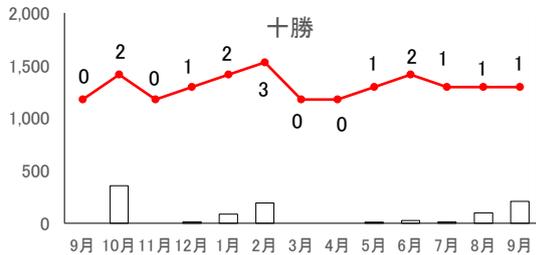
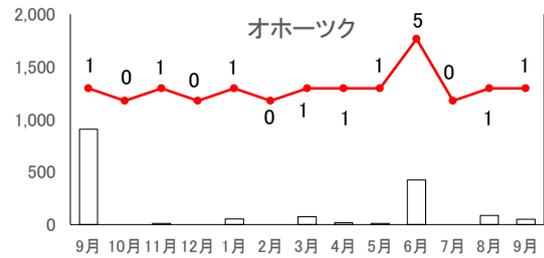
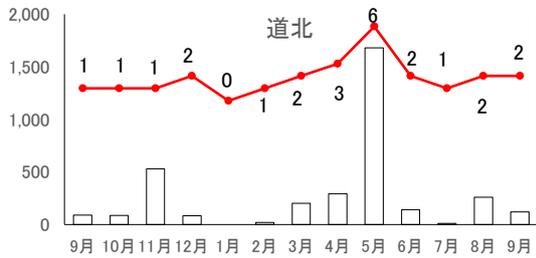
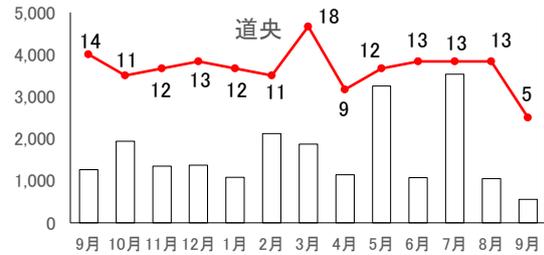
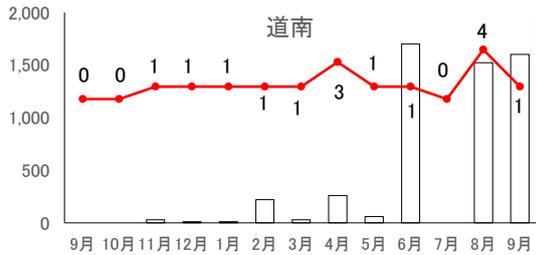


## 負債総額（9月）

負債総額は、25億50百万円で同11.3%の増加となり、6か月連続で前年を上回った。



### ■各圏域の倒産件数と負債総額 (百万円)



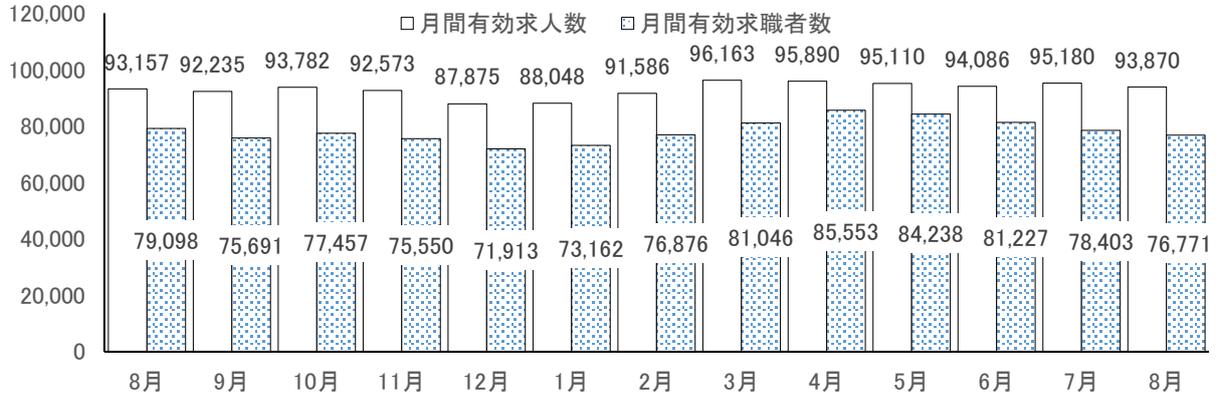
(資料: (株)東京商工リサーチ北海道支社)

## ■求人・求職 ～ 改善が進む中、人手不足感がみられる

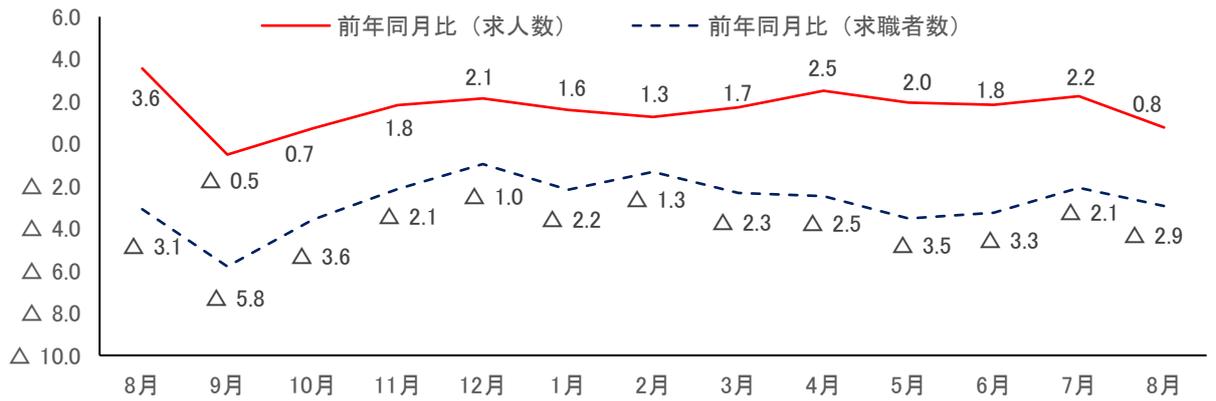
### 月間有効求人数・求職者数（8月）

月間有効求人数は、9万3,870人で前年同月比0.8%の増加となり、11か月連続で前年を上回った。月間有効求職者数は、7万6,771人で同2.9%の減少となり、94か月連続で前年を下回った。

(人)



(前年同月比：%)



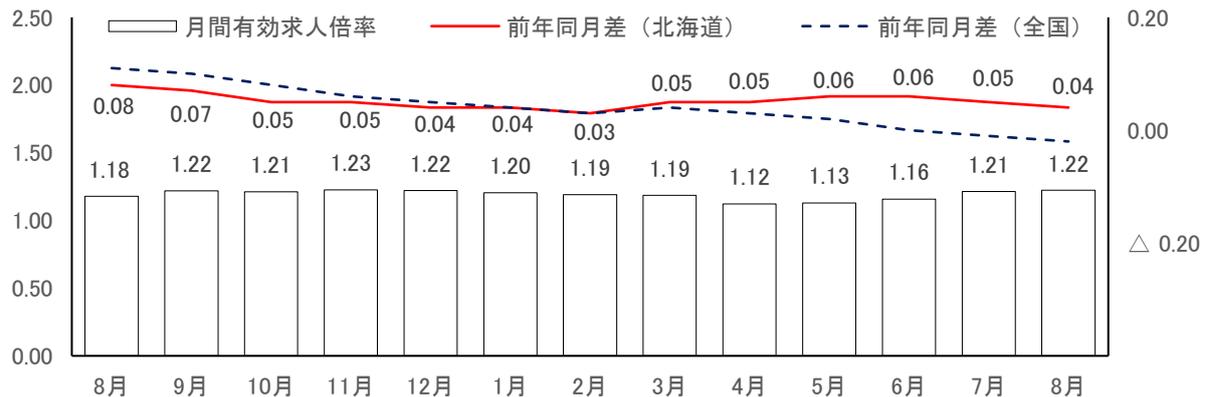
(資料：北海道労働局)

### 月間有効求人倍率（8月）

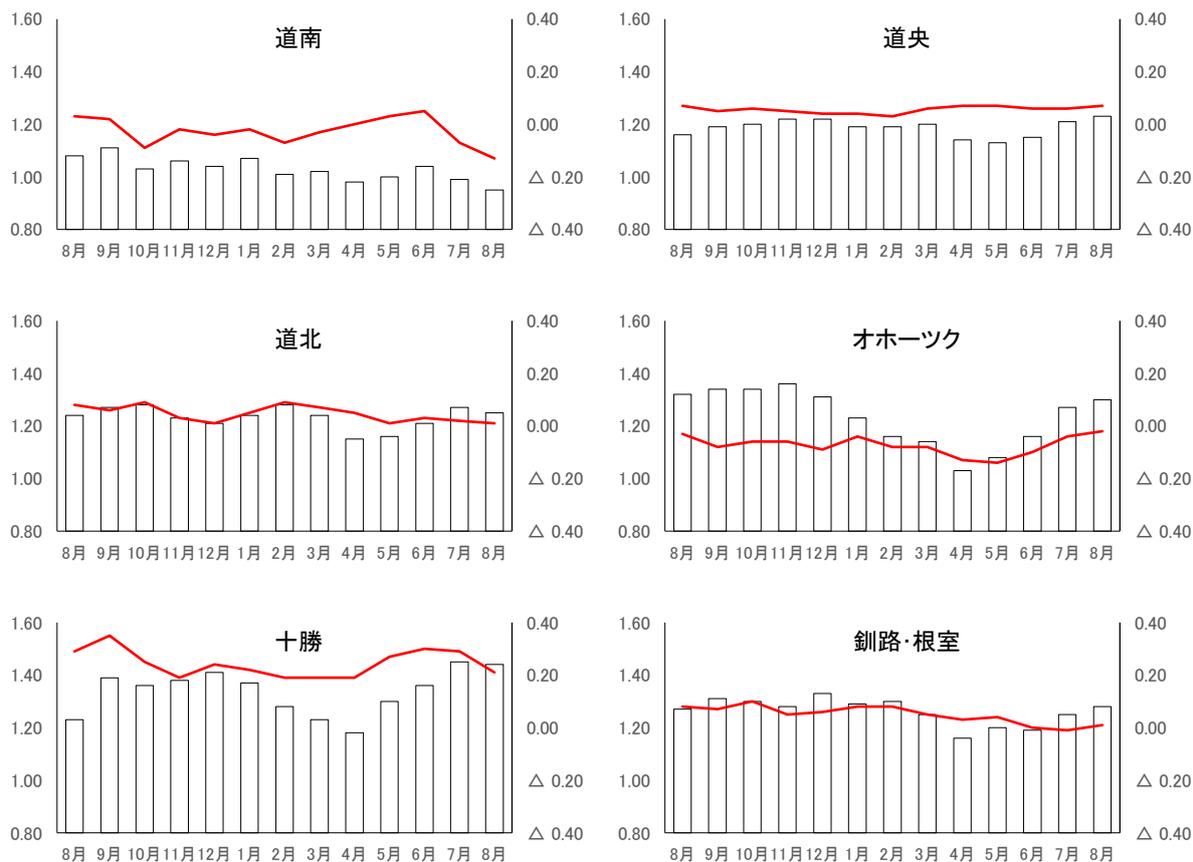
有効求人倍率は1.22倍で、前年同月差で0.04ポイントの増加となり、115か月連続で前年を上回った。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



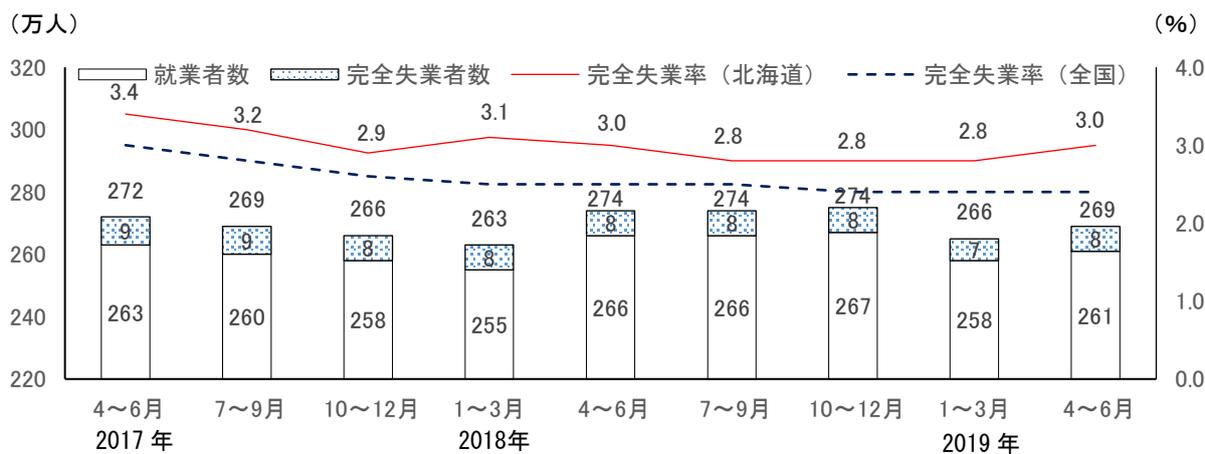
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差：ポイント）



(資料: 北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（平成31年4月—令和元年6月）

完全失業者数は、8万人で前年同期と比べ、同数となっている。  
完全失業率は、3.0%で前年同期と同率となっている。

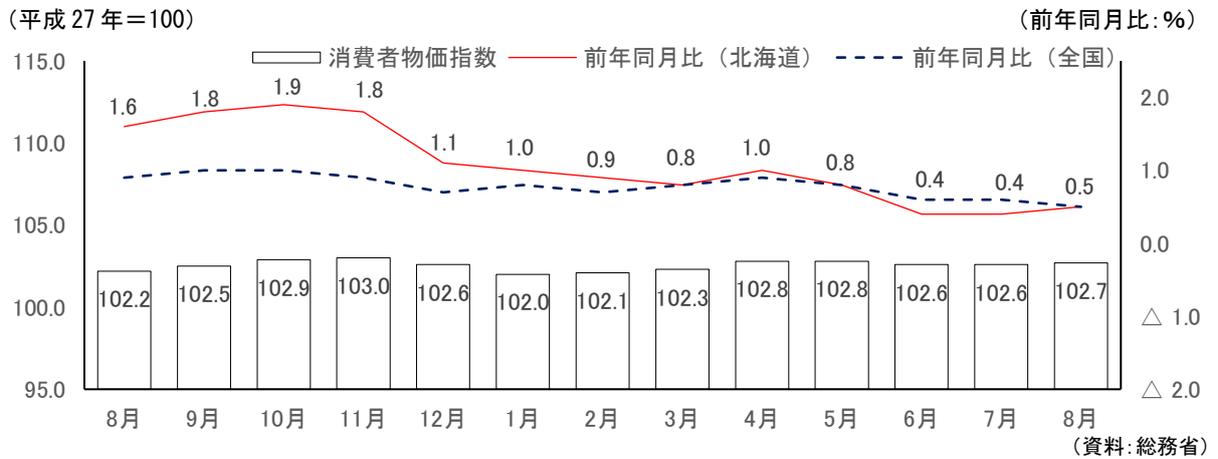


(資料: 北海道労働局)

## ■物価 ～ 消費者物価指数は前年を上回った

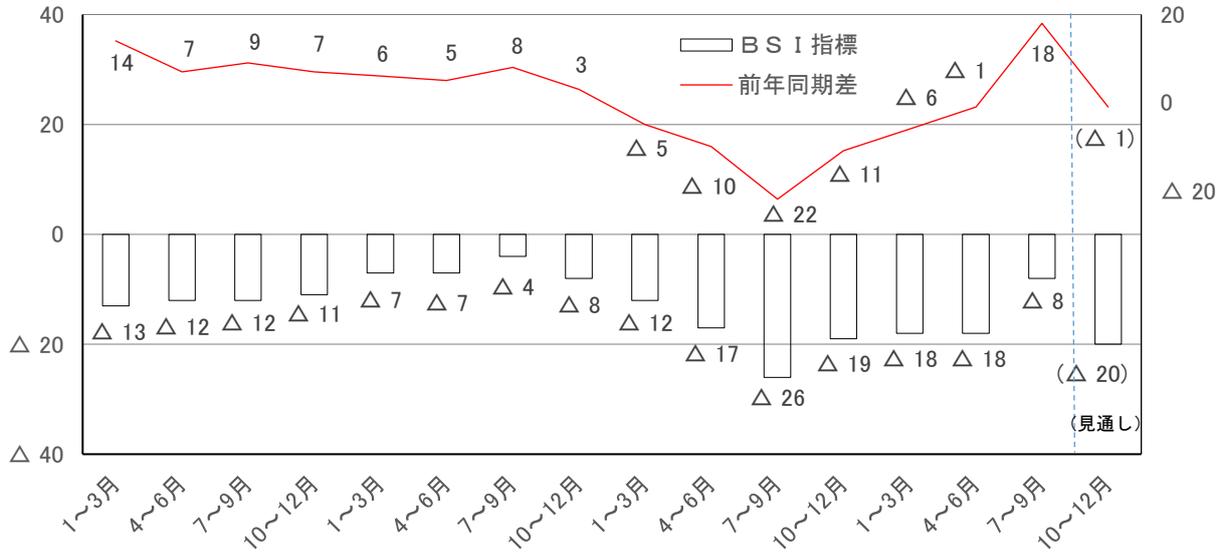
### 消費者物価指数（8月）

消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、102.7で前年同月比0.5%の上昇となり、33か月連続で前年を上回った。

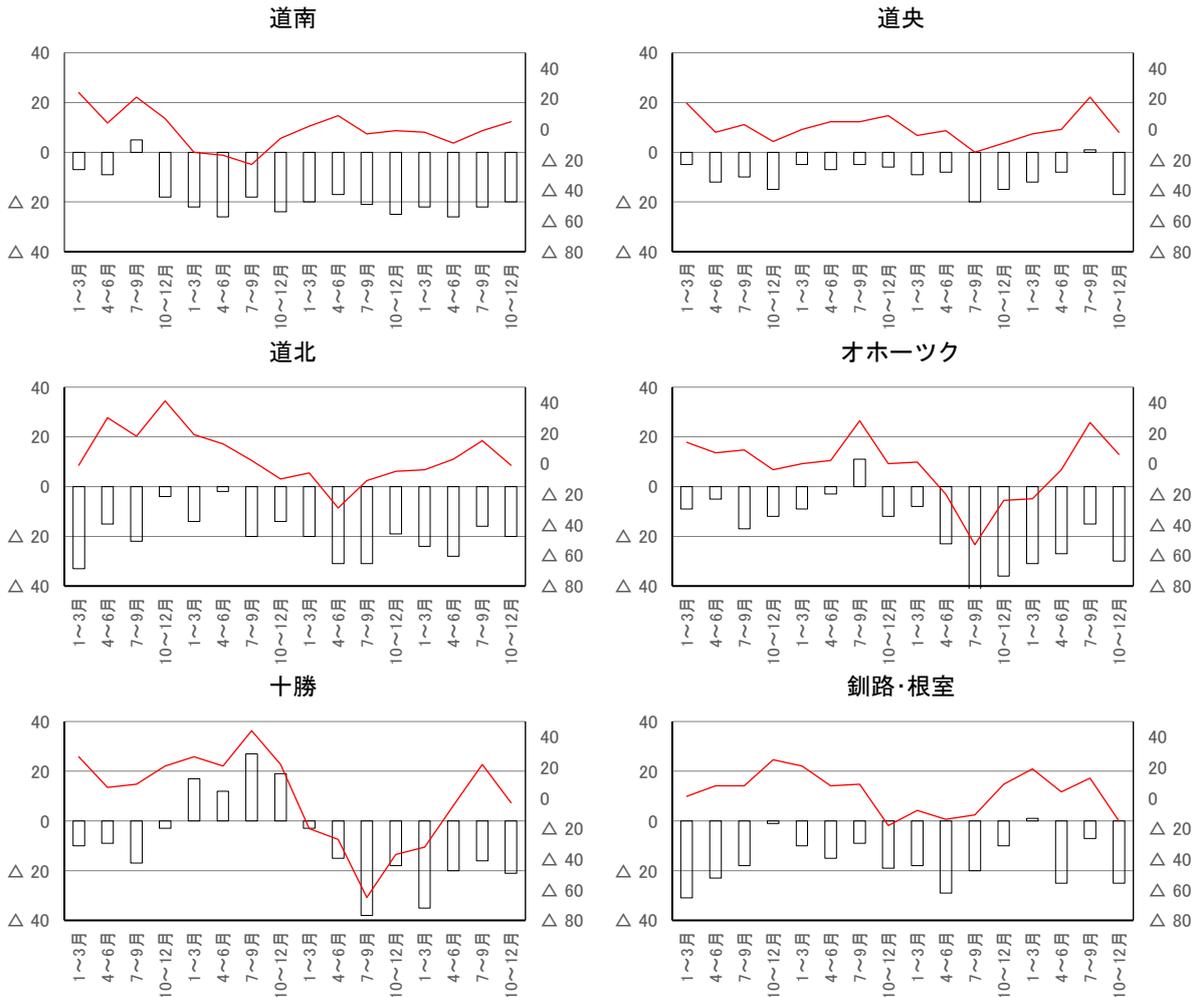


## ■企業経営者意識調査～ 前期から上昇している

令和元年7～9月期の業況感BSIは△8ポイントで、前期から10ポイント上昇しており、前年同期より18ポイント上昇している。来期は△20ポイントで、今期から12ポイント低下の見通しとなっている。



### ■各圏域の業況感BSI (右軸は前年同月差：ポイント)



## ■企業のみなさまから伺いました

### ◆百貨店（道央地域）

#### 【消費増税前の駆け込みピークは最終週】

消費増税前の土日を含む最終日4日間は、前年比+50%を超える売上増となり、駆け込みのピークとなった。特に動きが大きかったのは化粧品や特選品ブティック、時計や宝飾品などの高額品だった。10月に入ってからは、全般的に売上は前年比マイナスとなっているものの、化粧品ではメイクアップ用品など新製品の発売があったこともあり、回復しつつある。

#### 【インバウンドは低調が続く】

中華圏の客の売上は8月に引き続き9月以降も減少が続いており、10月上旬の国慶節の時期も振るわず、インバウンド全体では、前年比を若干下回る状況となっている。

韓国人客については、元々売上が少ないので、影響はあまりない。

### ◆スーパー（道央地域）

#### 【増税前の1週間に駆け込み買い】

9月の売上は、地震に伴い需要の増加した前年同月と比べると減少しているが、一昨年と同月と比べると上回った。お酒と日用品はセールをおこなったこともあり、増税前の1週間は駆け込み買いで売上が伸びた。郊外の店舗では、米やドリンク類などの重たい商品に「ついで買い」の動きが見られた。

#### 【消費の冷え込みは不明】

消費税増税後は、軽減税率が適用される食料品が主な商品なので、これまでのところそれほど大きな影響は出ていない。消費者心理の冷え込みがどのように現れるか注視していきたい。

### ◆コンビニエンスストア（道央地域）

#### 【客数は増加したが、売上は減少】

9月は、中旬に台風の影響があったものの、月間を通じて日照時間も長く、気温も高めに推移したことにより客数は伸びたが、売上については、昨年の震災需要の反動等の影響も考えられ、前年を下回る結果となった。

#### 【消費増税前の駆け込み需要は小さい】

タバコ、酒類や一部雑貨に駆け込み需要はみられたが、平成26年4月の消費増税時と比較すると、今年の増税率は低いことや、増税後のキャッシュレスポイント還元の施策があり、増税の影響は小さかったと考えられる。

## ◆自動車販売業（道央地域）

### 【業績は好調に推移】

最近は増益で推移しており、今期については過去最高を更新した。要因としては販売が好調なことや、標準の安全性能等が向上しており、車体本体価格が上昇傾向であることが挙げられる。個人消費については、特に消費が鈍っているような印象は持っていない。「車離れ」が危惧されているが、北海道では車は生活必需品という部分があるため、今のところそれほど感じていない。

一方で採用については、特に技術職で不足しており、新卒だけでなく中途採用も行うが、業界間での取り合いになっている状況で、全体的に人手不足感を感じている。

### 【駆け込みの反動減の影響は限定的】

7月、8月頃に駆け込みを予想していたが低調に終わり、逆に9月に入ってから想定以上の駆け込みがあった。しかし、全体で見れば大きな動きがなかったため、消費増税以降の反動減の心配も少ないのではないかと考えている。

## ◆宿泊業（道央地域）

### 【国内外ともに客数が減少】

胆振東部地震後の「北海道ふっこう割」による誘客の反動減で客数は低調に推移しており、宿泊単価を下げて誘客しているので営業利益は多くない。10月は、台風19号の影響で、関東地域からの予約のキャンセルがみられる。また、外国人客数については、日韓関係悪化の影響で韓国人客が激減しているほか、台湾からは6～7月の航空会社のストライキ以降減少傾向が続いており、香港からもデモの影響もあり減少している。

### 【消費増税の影響は軽微】

消費税増税により消費者が生活必需品に一層お金を使わざるをえなくなった分、旅行などの娯楽への消費は後回しになってくると思われるが、影響は軽微と考えている。

### 【海外からの直行便に期待】

新千歳空港では、東南アジアからの直行便が増えていることもあり、タイ、マレーシア、フィリピンなどの観光客が増えている。また、12月に就航するオーストラリアやフィンランドとの直行便にも期待したい。

札幌市での開催がニュースとなっている東京オリンピックマラソンは、全世界に札幌を知ってもらう機会として大いに期待している。

## ◆宿泊業（釧路・根室地域）

### 【宿泊客数は安定】

当地では会社等の支社や支局などが減ってきており、ホテルに泊まって仕事をしていくビジネス客が多いため、年間の客室稼働率は安定している。外国人客については、観光地のホテルのように積極的に受け入れていないため、最近の日韓関係の悪化による観光客の減少の影響は受けていない。同じ業態のホテルでも影響を受けているところはあると思うが、深刻というほどではないとみている。

### 【直行便の就航に期待】

消費増税による調達コスト上昇という影響はあるものの、今の水準の宿泊代金であればなんとか利益を出していけると思う。しかし、人手不足のため客室業務の外注先から委託料金の引き上げ要望があるなど、ホテル全体として経営環境は決して良くない。

近年、日本は大きな災害を何度も乗り越え、観光の流れは全体として良い方向にあると思うので、当地としては、道内空港の民営化を契機として地元空港への直行便が増えてくれることを期待したい。

## ◆飲食店（釧路・根室地域）

### 【サンマ不漁の影響】

今年のサンマ不漁の影響は大きく、漁期の早い時期には水産加工業者によるバイヤーの接待の動きはみられなかった。サンマはごく最近になっていくぶん獲れてきているが、そうした動きはまだまだ少ない。事業者等による大人数での宴会も少なく、少人数単位での利用が中心になっている。また、二次会がセットされなくなってきて、商店街のスナック関係者は悲鳴を上げている。

### 【水産業などの活性化に期待】

ここ2、3年の店の売上は堅調に推移しており、消費税率の引き上げにもうまく対応しているが、市内の飲食店は忙しい店とそうでない店がはっきり分かれてきており、店に特徴がないと客は入らなくなっている。10月上旬までに大きなイベントが終わってしまったので、忘年会シーズンまでをどう乗り切ろうかという状況。いま当地では領土問題の進展が大きな関心事であり、漁場の拡大や共同経済活動などで水産業や水産加工業が活性化することを期待している。

## 最近の経済動向

令和元年10月号

---

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

---

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>